

第 2 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文
コ ン テ ス ト

優 秀 賞

東 京 学 芸 大 学 附 属
国 際 中 等 教 育 学 校 5 年

マ イ ケ ル 瑛 美 さ ん

第2回優秀賞作品

マイケル瑛美さん（インドネシア部門）

【 本 文 】

この夏、私はインドネシアで開催された、高校生、大学生を対象としたサイエンスキャンプに参加する機会を与えられた。出発前は、イスラム教を信仰する人が多数を占めるインドネシアで、クリスチャンでなおかつイスラム教でタブーとされる左利きである私はその文化に馴染むことができるかとても不安であった。しかし、そんな心配は到着した初日からたくさんの方の歓迎を受け一掃された。

日本とインドネシアは同じ島国であるが、インドネシアの島数はなんと、1万3466島にも及ぶ。これは日本の島数の約2倍にあたり、インドネシアの各島では、同じ国でありながら島によって異なる文化が存在している。多種多様な人が暮らすこの国で、キャンプで出会った友人は、お互いの島の文化、宗教、生活を尊重していた。驚くことに、友人のほとんどがすべての島の名前を記憶し、同じ島の出身者でなく宗教が異なっても、皆笑顔

第2回優秀賞作品

マイケル瑛美さん（インドネシア部門）

であったということだ。

優れているのは、思いやりの精神だけではない。それを支える言語能力、学ぶ意欲が高いということだ。出会った友人は英語を流暢に話し、英語で行われた大学教授の講義を熱心に聞き、積極的に質問をした。インドネシアでは、高校までが義務教育化され初等教育の時点から英語の学習が必須である。

東京2020オリンピックにおいて、日本はどのようにして外国の選手団、観光客をもてなし、一体となって盛り上がることができるだろうか。日本は技術力に優れ、学問においても優秀だとインドネシア人の友人は褒めてくれた。けれども、日本にいとそんなに褒められる国でもないような気がしてしまう。実際、イギリスの Charities Aid Foundation が行った寄付、ボランティア参加等による人助けを数値化した世界寄付指数で、日本は先進国の中で最下位であった。この結果がすべてだとは言えないが、東京2020オリンピックま

第2回優秀賞作品

マイケル瑛美さん（インドネシア部門）

でに、何か意識改革が必要ではないだろうか。

現在の日本には、やらされている感が蔓延し、閉鎖的で冷たい人が多いように感じる。

しかし、本来日本人は世話好きで、もてなしが好きな温かい人々だと考える。インドネシアとの交流が次世代を担う私たちの意識改革につながるのではないだろうか。同年代の友人を作る交流こそが自ら考え、行動することの原動力になると思う。イスラム教を信仰する女性はたくさんのルールの中で不自由であるように見えるが、写真の女性のようにベールの上に斬新なシャトルロックの装飾をしてバドミントン観戦を楽しんでいる。決められたルールの中に自分らしさを見つけ、秩序がある中に喜びを見つけ、楽しむ。実際私が会ったインドネシアの女子学生たちからもそんな姿勢が感じられた。日本は、インドネシア学生の学習への姿勢、異文化への寛容さを見習うべきだと考え、この同世代交流が多様性を認める社会を作っていくことにつながる。

第2回優秀賞作品

マイケル瑛美さん（インドネシア部門）

考 え る 。

第2回優秀賞作品

マイケル瑛美さん（インドネシア部門）

参 考 文 献 :

ホ ー ム ペ ー ジ

(BBC NEWS) Indonesia counts its islands to
protect territory and resources

(日本離島センター)知る－基本情報－日本の島の
数

(CAF) World Giving Index 2014

(日本アセアンセンター)A.S.E.A.N. 加盟国のご
紹介－インドネシア－

(外務省)日本インドネシア国交樹立60周年